

事務局資料

2019年5月
經濟產業省

1. 法務機能の理想像（法務は何をするのか）

- 法務機能とは、3つの機能が相互に支えあう関係。
- そのバランスは経営が何をを目指すか次第 → 経営とのコミュニケーションが重要

案 1

ビジネスクリエーション

ビジネスナビゲーション



リスク回避

案 2

ビジネスクリエーション

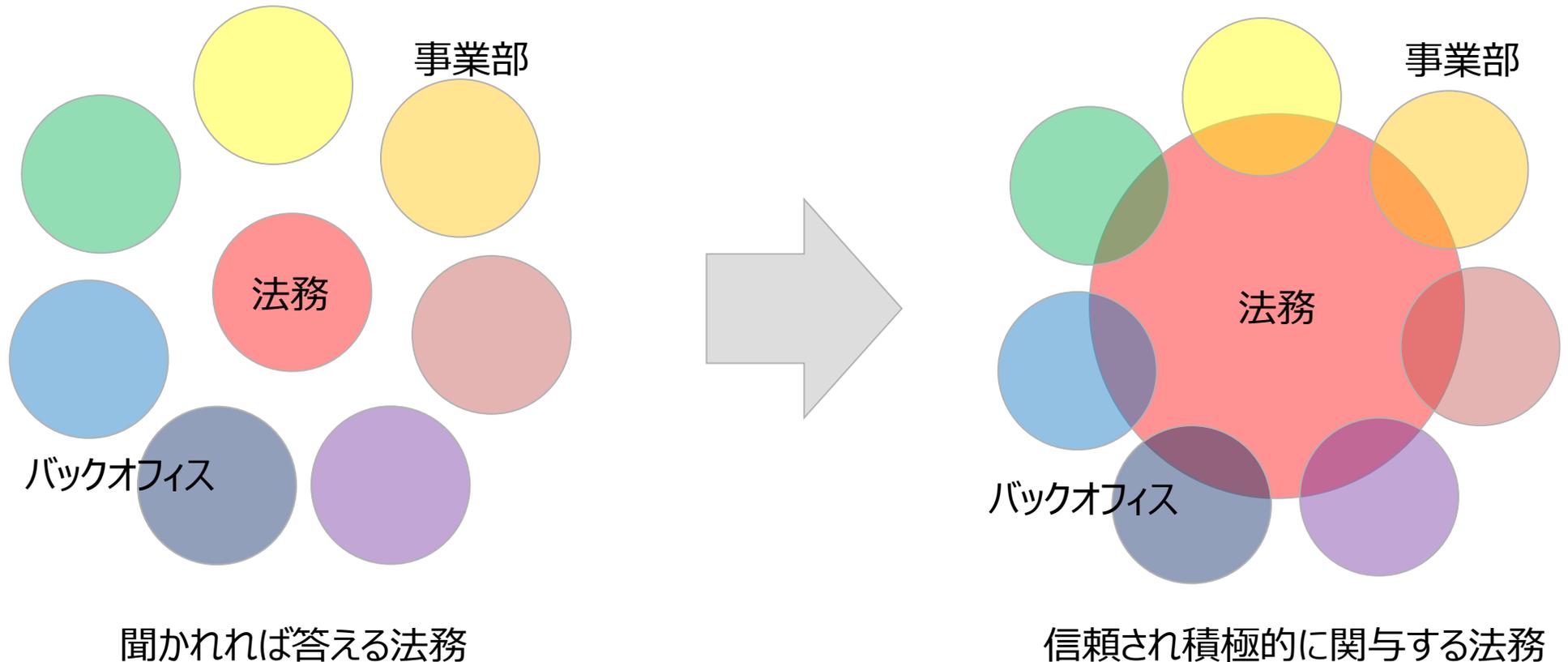
ビジネスナビゲーション



リスク回避

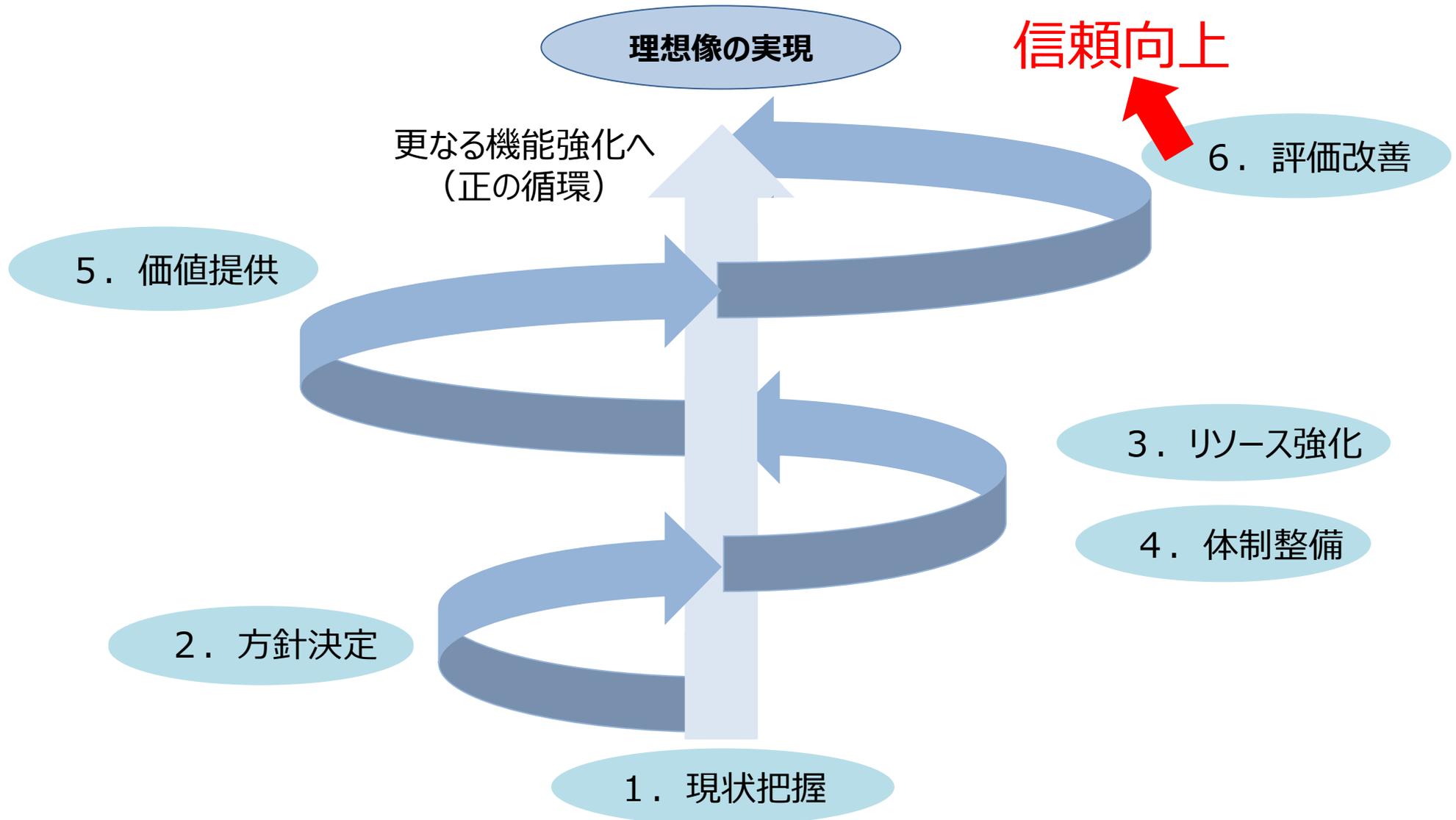
1. 法務機能の理想像（法務）

- 法務機能が要求される問題は、社内のありとあらゆるセクションに存在。
- 3つの機能を十全に機能させるためには、法務担当部署・担当者は各セクションに「首を突っ込む」ことが必要。
- そのためには、ベースとしての信頼関係が必須。



2. 改善策の方向性（総論）

- 信頼を培い機能を向上させるためには、発展・改善の積み重ねが重要。



2. 改善策の方向性（各論）

1. 現状把握

- ・事業部などに対する社内アンケートの実施
例：社内のカウンターパートに対して、法務部全体と法務部員個人について、ビジネス理解やスピード、専門性などについて評価してもらう。
- ・法務部内の意識調査の実施
例：法務部内で意見交換をし、抱えている業務の棚卸しや課題を把握。
- ・各員の業務量、業務内容の見える化（テックによるマネジメント）
例：タスク管理ツールの導入
契約書を「Word文書ファイルでフォルダに保存」ではなくシステムに入れて業務量を管理

2. 方針決定

- ・社の理念や方針と対応した法務のミッション、年度方針、目標等の制定
例：社の理念を法務部に当てはめたビジョンを作成
ビジョンにあわせた法務の年度計画を作成

2. 改善策の方向性

3. リソース強化

- ・テクノロジーを活用して、日常業務のコストを削減する、品質を向上させる

例：契約書レビューツールによるチェックの手間の削減

（将来的には）リーガルのシステムと人事労務管理、案件管理等の他のシステムをひもづけ、一元管理

- ・外部人材（法律事務所等）の活用

例：「どう思うか」ではなく「こういう結論を導けるロジックを作れ」というように、方向性を指定して発注する

日常業務のオペレーション改善アドバイザーとして活用（米国）

低リスクの契約書を低コストで外注（米国）

2. 改善策の方向性

4. 体制整備

- ・レポートラインや決裁ラインの整備

例：金額等の一定のラインを超える案件については法務を決裁ラインに入れる

- ・事業部との関係性の強化

例：法務部内に事業部ごとに担当者を設置

法務部の会議に事業部も出席

事業部に席を置く法務担当者を設置

事業部の会議に法務部も出席

法務部内でチームを組んで、チーム単位で事業部との関係を構築

- ・他部署が閲覧・使用可能なFAQや契約ひな型の充実

- ・定型の日常業務と非定型の戦略業務の分離

5. 価値提供

6. 評価改善

- ・部内での振り返り

- ・経営層への報告

例：データ収集して可視化した1年間の活動状況を社長に報告